

# (九) 土京の青木与市

「自分ハ青木与市年齢ハ四十五歳身分ハ平民職業ハ農ナリ」。この単純明瞭な文章は、青木与市「訊問調査」の冒頭部分です。

戸井昌造『秩父困民軍の戦いと再起』は、尋問調査から与一の申し開きを要約して物語り風に書いていますが、さらにこれを抜き出して、与一が事件とどう関わったか見ていきます。

「十一月一日、弟に貸した半纏を取り戻そうと下吉田に行ったら、鉄砲を持った連中に出くわし、お前も同意しろと言われ、少々酒を飲んでいたので、心得違いを起こし、椋神社に行ってしまった。

そこで総理の旗を持たされ、奈倉まで行ったら、下吉田や小鹿野の方に火の手が上がった。もし皆野の金貸しに火をつけられたら、家も危ないと思い、そこから逃げ、大浜の渡まで来たら、夜のことで船は出ず、川原で野宿した。

二日、招木の酒屋で二銭分だけ酒を飲み、林の中に隠れていた。  
三日、「横瀬川橋向う」の酒屋で暴徒六人に会い云々(前回項)。小池戸長宅によって、家にもちよつと寄つて、親鼻に出た。皆野で炊き出しを手伝わせられたが、炊き出しさせられる方も困

っているの、そのことを知り合いの落合寅市に言うと、代金は明日総理が払うと言うので、茂木増蔵から米一駄を買い付けた。

暴徒は三日から四日にかけて皆野に屯集し、四日、一手は

本野上から八幡山へ、一手は下吉田へ向つた。自分は暴徒たちの荷物を背負い、吉田口から信州まで行つちまつた。

信州へ行くことは、四日親鼻で聞いた。信州へ行きや一万にもなるから、秩父もんで帰りたい奴は帰れるつて、家を出る時、信州に行くなら善光寺様に寄つて「お血脈」を受けてきてくれないと女房に言われ、一円渡されました。

(問) おまえはなぜ逃げなかつたのか。  
(答) 酒が好きでどうとう遠方まで行つちや

いました。これからは酒もやめにする積りでやんす。酒の一合も飲めば何も忘れてしまうんで、身代回しも女房がやっている次第で。

## 皆野町の秩父事件⑮

(問) 酒を振舞われたのか。

(答) 身銭を切らずに飲んだのは、椋神社で二杯、五日塚越の河原で二杯、八日東馬流で荷物の番をしている時、鉄瓶を持ってきた奴がいて、十一人で飲んだだけでやんす。酒代は一銭も貰つちやいねえんで。持っている七〇銭余は、女房から貰つた一円の残りです。

戸井昌造は、与一について、こう称賛しています。

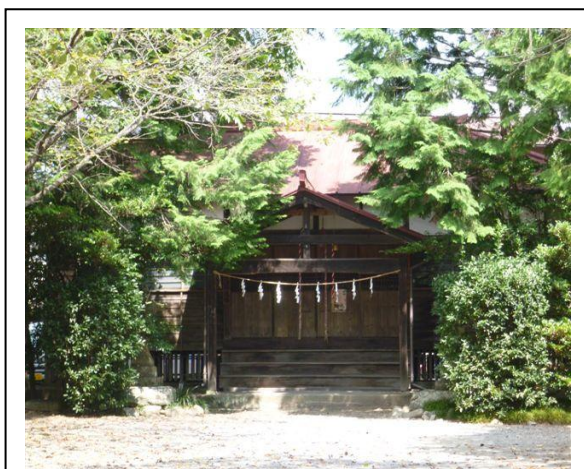
「与一は晩年、『よいつちやま』とか、『へつぱり市』とか呼ばれて少々バカにされていたそうだが、ただの愚者とは、わたしには思えない。

一見バカみたいにペラペラとしゃべっているように見えるが、言いのがれを綴り合わせ、適当に『うそ』を交えながらどんどん吐き出すことによつて相手に疑問をはさませないとするかのようにである。意図的にしろ、無意識にしろ、これは護身の知恵でなくてなんであろう。

しかも底抜けの楽天性に裏うちされている。楽天性こそ民衆の底力である。それに判断力と行動力が伴えば鬼に金棒である。与市は、充分とはいかぬまでも、それらの資質を備えていたと見ていいのではないだろうか。」

青木与市は、信州から逃げ帰る途中、

東馬流の戦いの翌日の十一月一日、十国峠を下りた山中谷檜原村で逮捕され、単なる「付和随行」と認定されたにも拘らず、七円の罰金を申し渡されました。



(土京・諏訪神社)


### 出かけてみませんか

肥田先生から元気をもらおう!

一月二七日(日) 12:30

秩父伝承館ホール

**肥田舜太郎医師に学ぶ**  
安心して暮らす地域を創るために



広島で被爆を経験し、被爆者治療と核廃絶運動に献身してきた肥田医師が内部被爆の実態について語る!

ドキュメンタリー映画「核の傷」同時上映

平成25年1月27日(日)  
会場 秩父市歴史文化伝承館ホール  
入場無料(定員二五〇名)  
開場 12時30分  
①映画上映「核の傷」13時(33分)  
②講演会「肥田医師と内部被爆」14時15分(15分) 質疑応答含む16時終了

## 新米議員のひとりごと

常山 知子

「今年はどうな年になるのかしら?・・・新年早々、憂いにも似た思いがかけめぐります。

12月31日付の埼玉新聞に「復興増税1月から25年間所得税に2・1%上乘せ」という記事。そして、来年(14年)6月からは、住民税の復興増税が10年間、年千円定額加算。

さらに追い打ちをかけるように、消費税が14年4月から8%に、安倍内閣は前向きです。

また、去年11月の国会解散のドサクサの中で、年金の切り下げ(3年間で2.5%減)が十分な審議もしないで決まってしまうました。

「何んで」「年金額が本来より高い水準になつている」政府の言い分です。

今年10月から1%、14年4月から1%、15年4月0・5%それぞれ削減されます。復興増税、消費税増税、更には年金の減額、働く人たちの給料は下がるいっぽうです。

私たちはもつともつと怒らなければ! 「正月から激しいですか?」